

■成瀬巳喜男 映画監督。戦前に地位を築き、〈敗戦〉後の林芙美子「浮雲」を絶頂に、一貫して女性を主題に製作。

なるせみきお

日露戦争終 1905＝ 東京四谷で、没落した武家の出で刺繍職人をしていた家に生れた。

幼い頃から、姉に連れられ、良く映画を見ていた。

明治天皇没 1912＝ 7歳： 尋常小学校に入学。

第一次大戦始1914＝ 9歳：

本格政党内閣1918＝13歳： 卒業し、築地の工手学校に入学。図書館に通い文学書を濫読、月島の埋立地に行くなど、孤独であった。

大暴落・・・ 1920＝15歳： 父が死去。卒業し、創立された松竹キネマ鎌田撮影所に小道具係として入社。父が死去。

原敬首相暗殺 1921＝16歳：

水平社結成 1922＝17歳： 池田義信に見出され、その助監督となる。

関東大震災 1923＝18歳：

円本時代始 1926＝21歳： 母が死去。

共産党事件 1928＝23歳： 転職を決意したが、鎌田駅で五所平之助に出会って、説得され、翻意し、彼の助監督となる。

世界恐慌・・・ 1929＝24歳： 監督としての機会を与えられたが、

海軍軍縮条約 1930＝25歳： 良い作品が出来ず、しばらく機会を失う。

満州事変・・・ 1931＝26歳： *「腰弁頂張れ」が所長に称賛され、批評家にも好評で、ようやくナンセンス喜劇の監督としてデビュー。

五一五事件 1932＝27歳： 初めての大作メロドラマ「蝕める春」で一躍名声を高めた。

国際連盟脱退 1933＝28歳： 「夜ごとの夢」は検閲で一部カットとなるが、高い評価を得、新人監督のホープとなった。

芥川直木賞始 1935＝30歳： *東宝の前身PCLに移籍。「妻よ薔薇のやうに」は日本トーキーの一つの到達点とされ、その女性像(千葉早智子)の鮮やかさは、彼の特技となる。「噂の娘」は全日本映画コンクールで優勝。

日中戦争始 1937＝32歳： 千葉早智子と結婚。

健保+総動員 1938＝33歳： 「鶴八鶴次郎」の山田五十鈴、戦局が進むに従い、製作が困難になって行く。

大政翼賛会 1940＝35歳： 離婚。

日米開戦・・・ 1941＝36歳：

創価学会検挙 1943＝38歳： 「歌行灯」の林の中の木漏れ日の美しさは、撮影の中井朝一を通して黒沢明監督の「羅生門」につながる。

敗戦・・・ 1945＝40歳：

新憲法公布 1946＝41歳： 再婚し、以後安定した私生活となる。東宝の争議では、残留組となった。

新憲法施行 1947＝42歳： 長男誕生。

極東裁判決 1948＝43歳： 再び大争議となり、退社してフリーとなる。

三大事件・・・ 1949＝44歳： 「不良少女」で、後に名コンビとなる撮影の玉井正夫と初めて組む。

朝鮮戦争始 1950＝45歳：

独立回復・・・ 1951＝46歳： *起死回生の作品として高く評価された林芙美子原作の「めし」の原節子にもうけつがれ、毎日映画コンクール監督賞。林芙美子原作「稻妻」に始まる高峰秀子とのコンビは決定的なものになる。田中澄江、水木洋子などの女性シナリオライターとの協力も多い。

メデー事件 1952＝47歳： パリで「おかあさん」が公開され、好評を得る。

55年体制始 1955＝50歳： 林芙美子ものの総決算「浮雲」(高峰秀子主演)は、最高傑作の評価を得、

国連加盟・・・ 1956＝51歳： 毎日映画コンクール、「キネマ旬報」と「映画旬刊」ベスト1など、賞を総ナメにした。

その後、しばらく低迷のち、

美智子妃・・・ 1959＝54歳：

安保闘争・・・ 1960＝55歳： 「女が階段を上る時」「娘・妻・母」がヒット。

全国総合計画 1962＝57歳： 高峰秀子の提案で、田中澄江との最後のコンビ作品となる林芙美子原作「放浪記」を撮影。

この前後、体調を崩して低迷。

いざなぎ景気 1966＝61歳： サスペンス映画という意外な転換に出て話題になったが、

美濃部都知事 1967＝62歳： *「乱れ雲」が最後の作品となり、

霞ヶ関ビル 1968＝63歳： 再び、体調を崩して入院し、

全共闘バカ 1969＝64歳： 直腸癌のため、没した。